

実力が違いすぎて勝負にならない。女子も内村(自由)が2回戦に進んだが、明石の大蔵中の前田に一蹴された。

東播大会は男女とも濱手の加古川・明石・高砂が強く、内陸部は振るわない。ライバルが相競わなければ、入賞は程遠い。(報告 波田幸信)

小椋先生、東播地区 準優勝に貢献 ひよっこ生涯スポーツ大会 地区別剣道交流大会

6月30日(日)、「第46回兵庫県少年剣道の集い」と、時と会場を同じくして、神戸市立王子スポーツセンターで、「ひよっこ生涯スポーツ大会地区別剣道交流大会」が行われた。県下8地区から選抜された選手がチームを組み、優勝を争った。

東播地区協議会は、これまでの大会でまだ優勝することがなく、今年も悲願の初優勝に向けて、精鋭を繰り出した。

我が三木市からは、去年の田畑先

生に続き、今年は小椋治朗先生(成人指導部長、教士7段)を推薦し、地区内の同意を得て、チーム次鋒として出場した。

試合は、1回戦、阪神北地区協議会と対戦。次鋒小椋先生は、相手の梶繁夫7段がコテに来るところをすり上げてメンを奪い、一本勝ちとした。対戦成績2-1で2回戦(準決勝)へ。

相手は、昨年優勝の西播地区協を破った淡路地区協。先鋒一本負けの後を受け、小椋先生は、森本秀樹6段がメンにくるところを左に開いてコテ、さらに相メンに乗って勝ち二本勝ち。その後中堅が二本負け、副将が取り返し、ここまで2-2の本数も同じで相拮抗した試合となり大将戦へ。東播の大将は加古川剣連の会長鈴木邦雄先生、引き分けとする。代表選となり、淡路の大将伊澤章先生は試合経験豊富な強敵だったが、最後にメンで決め、決勝戦に進出した。

相手は、但馬・神戸の地区協を破り勝ち上がった阪神地区協議会。小椋先生は、相手の鋭いメンを返し胴で切り抜けようとしたが失敗、メンの一本負けを喫した。チームも阪神地区の勢いに圧倒され、今年もあと一歩というところで優勝を逃した。

(高橋洋三)

「木刀による剣道 基本技稽古法」 講習会を開催

見出しの講習会が、7月1・8日の2日間(19時半より約1時間)、三木市民体育館に於いて開催されました。この講習会の目的は、この稽古法を三木市内の各剣道教室に広め、各教室の指導者が教室生徒に正しく指導できるようにすることです。

従来、県の1級審査会においてこの稽古法の講習が行われてきましたが、来年度からは、審査の対象になります。また、本年10月に行われる「青少年健全育成剣道大会」において、この稽古法の対抗試合が行われます。これらを理由として講習会は行われました。

この講習会では、主任講師である小椋先生より、「木刀・竹刀は日本刀であるとの概念を基に、刀のよりに扱うこと(刀法)。座礼・立礼の仕方(礼法)も教えていただきます。実技では、元立ちは先生であるので、元立ちが打つ機会(台気)になら

てを与え、掛かり手はそれを逃がさず打つことを強調されました。

最後に指導者は子どもたちの手本となるような、立ち居振る舞い・所作を行うようにとの注意があり、本やDVDなどを見て勉強し、その通りのことを行って、我流で教えないようにとのことでした。

参加者は別表の通りですが、昨年度に比べて参加者が減少しております。また、当初は2班に分かれて行う予定でしたが、全員同時の講習会となりました。次回開催時には多数の参加を期待します。

「木刀による剣道基本技稽古法」講習会		参加者	
主任講師	小椋 先生	講師	田畑 先生
参加者数			
教室名	7月1日	7月8日	
三木中央	3	3	
緑が丘	3	5	
自由が丘	0	4	
口吉川	0	0	
志染	3	2	
別所	3	2	
剣修会	0	0	
吉川	2	2	
連盟	1	0	
合計	15	18	

(少年指導部長 大柴敏昭)

ゴールデンエイジ・プロジェクトに参加して (7月13日)

7月13日(土)、加古川市立武道館において兵庫県体育協会が剣道に携わる者の指導・育成と少年・少女剣士の基本技術の上達等を図るための一環として実施された「ゴールデンエイジ・プロジェクト」に三木市剣道連盟から指導者2名、剣道教室に在籍する少年剣士4名が参加し、兵庫県剣道連盟や東播地区協議会の先生方の指導で、丸一日、実のある稽古をさせていただきました。

指導願ったのは兵庫剣連、浦和人 教士8段、池田公律教士8段、東播地区協平野武彦教士7段の先生方です。参加者は110名指導者30名、教室生約80名

三木市剣道連盟からは大柴敏昭少年指導部長(別所、石田隆緑が丘)が付き添い、少年剣士は、山城彰宗(中央・照井瑞生(志染)・石田真大(自由が丘)・森岡祥平(緑が丘)の各君。

浦先生の講義で始まり、「所作」礼

法「着装」及び基本動作(足捌き、素振りなど)並びに「木刀による剣道基本技稽古法」を学びました。

【講義内容の要約】

稽古の方法について

- ・ 剣道は、日本の伝統文化
- ・ 剣道は、不変である。
- ・ 稽古は、一つ一つ繋がりがあがる。
- ・ 竹刀は、刀であるということに心がけること。
- ・ 有効打突を求めるための稽古をすること。

正座、座礼等について

- ・ 正座は、左足を半歩ひき、左、右の順で座る。(左座右起)
- ・ 正座をしても相手への視線を変えない。(頭から切られないように)
- ・ 座礼は、1、2、3の速度でゆっくりと礼をする。(相手と合わせる。)

- ・ 座礼後、頭を上げると力を抜き、軽く膝の上に手をのせる。(「お願いします。ありがとうございます。ごさいます。」という気持ちが大変である。)
- ・ 立礼(約15度および約30度)は、腰から曲げ、首は動かさない。

面の着け方、しまい方

置き方

- ・ 物見から相手全体を見る。
- ・ 面タオルで面の中を先に拭く。
- ・ 右ひざの前に小手(原則、こぶしを右の方向)を置き、その上に面を置く。
- ・ 面タオルは、裏返しにならないようにする。
- ・ 移動は、面の中に面紐、タオル、小手を入れ、右脇に持ち、左手に竹刀を持って移動する。

声の出し方

- ・ 打突部位に当たると同時に声を出す。

「間に合う・間に合わない」の法則

- ・ 電車の乗り込みを例え(電車に間に合い乗ったが、特急電車であり、自分が降りる駅を乗り

越し(通過)、間に合わなかった。電車を乗り遅らせたが、普通電車であり、自分が降りる駅で停車し、間に合った。)要は、焦らずゆっくりと形を作る(間に合う)ことが大事である。

【引率した石田先生の感想】

「今回、初めてゴールデンエイジ・プロジェクトに参加させていただき、基本に忠実に剣道の真髄を解説、示範していただき、『目からうろこが落ちる』思いでありました。」

(報告 石田隆)



新連載

防具担いで「交剣知愛」

平成25年7月23日の旅から

三木市剣道連盟副会長 森下 哲次

岐阜県中津川市は本当に遠い。神姫バスで三宮まで出て、阪神電車に乗

り換え、近鉄は榛原ははらでの待ち合わせに辛うじて間に合いましたが、そこで二つの失敗をしてしまいました。

一つ目は、持参の防具はバスの中に持ち込めないで、バスの横腹を開けて収納する際、こめかみと左目の中間あたりを蓋の端でこたま打られました。降りるときに運転手も心配するぐらい出血していました。

二つ目は、榛原駅で電車が止まっている間中、3年後輩の八田賢一氏と話し込み、電車が発してから気づき、次の駅でユーターンしたことです。二つあれば三つ目は？と心配しました。

榛原駅の南側で待つことしばし、5

年後輩の上垣功奈良剣道副会長(剣道8段)が車2台で迎えに来てくれました。一路中津川へ。運転の神代氏は広告企画会社経営の実業家。もったいない運転手です。途中休憩したり昼食をとったりしながら、大学同期の、若田耕平氏宅に到着しました。設計事務所を経営し、広い邸宅を構えていました。奥さんの看病で稽古もままならず、最近ようやく剣道の稽古を再開して、高校時代の仲間と剣道を楽しめるようになったのだそうです。

合同稽古は、午後7時から近くの文化会館で行われ、体育館のような床の上に階段の半分ほど高くなった台(小学校の体育館の約3分の2ほどの広さ)があり、隅には郷土芸能に使わ

れる太鼓が並べられています。

剣道着に着替えていると、剣道連盟の会長や若い愛好家がほつぽつ集まってきました。座礼の後早速稽古開始となりました。

目の前、阿部先生にはこちらからお願ひに行かねばと心に決め、大急ぎで面を付けました。自分の体は思いのほか動き、一息つけるかなと躊躇すると、すでに20歳代の若手が待つていました。さすがに打突が速く対応に手間取りました。何とか稽古を済ますと、待ち構えていたように、今度は30歳代の稽古慣れた方が掛かつてこれ、気



篠原会長、若田、安部先生

が抜けませんでした。こうして何人かの稽古が済み、これで一息つけるかなと後ろを振り向くと、剣道部OB会長の清水氏(教士7段)が既

に休憩していました。彼は大学剣道部師範を永年務めた上垣8段と同期で、静かな剣風の持ち主です。

遠方から稽古をお願いしてきたこの身は「いやいやここで休むわけにはいきませんよ。」と言ひ聞かせ、相手を探して前を向くと、中津川剣道連盟の篠原会長(8段)がおられるではないか。未知の方ながら永年連盟を引っ張つてこられた方と聞いています。立ち会ひの数秒後、素晴らしいメンを打つてくれました。

これまで滝川第二高校の長納憲二剣道部師範や大阪大学剣道部池田功師範から素晴らしい品格のある面打ちを頂戴してきましたが、それと同じメンをまた頂きました。当たる寸前に受けて胴に返してはいましたが、その品格に脱帽しました。剣道では勝敗で決められない「気の美しさ」が必要だと感じた一瞬でした。

それを教えてくださった篠原会長に感謝の念が今でも消えませんが。

若田耕平氏とは一年ぶりに剣を交えました。彼の気力未だ衰

えず、自分も頑張ろうと励まされま
した。



岐阜県剣道連盟の方々

その後も30代、40代の方々と稽古
が続き、最後には大学生女子との稽
古でようやく終了しました。我なが
らよくまあ続いたものだ！途中で皆
様に迷惑がかからぬようにと願いつ
つ続けました。約一時間連続の稽古
でした。



中津川にて

座礼の後、蹲踞する時の間合い、開
始線は稽古の折も同じ気持ちで行う

よう上垣八段から注意があり、な
な一の稽古を反省した次第です。

面を外しても汗は止まらず、ぬる
ぬるの汗で、手ぬぐいで拭いても拭い
てもあとから流れ出てきます。服に
着替えて会館を出ると、関西より2
〜3度は低い気温にほっとしました。

引き上げて宿舎に帰ると、座るのも
もどかしく、道々仕入れたビールや
寿司、差し入れのつまみ、手作りのお
かず、手土産の焼酎や酒など、盛り
沢山に遅い夕食となりました。話は
次から次へと弾み、床に入ったのは午
前3時でした。

次の日は、朝から雨で観光にも行け
ず、11時頃まで過疎地と高齢者問
題に悩む川上村や上北山村の現状に
ついて話し合いました。やっと小降り
になったので、とりあえず土産を買い
に出かけて、その足で中山道の宿場町
馬籠の見学を済ませ、帰路につきま
した。元気で若い神代氏もさすがに
疲れたのかPAがあれば休み、数回の
休憩をしながら大阪まで帰ってきま
した。

上北山村の副村長、中崎氏(教士)は
温厚な語り口ながら、剣風は重厚で
本格派だったなあと思いますし
ました。
三度目の災難は起こりませんでした。

月々の便り

愛合月音頭

遠をらより聞こゆ コンチキチン
祇園囃子は 寂びがある

遠より聞こゆ コンチキチン
無言参りの 舞子達

遠より聞こゆ コンチキチン
屋台でねだる 林檎飴

遠より聞こゆ コンチキチン
裸足で走る 壬生浪士

遠より聞こゆ コンチキチン
今日は曳かれて 大路往く

※ 愛合月めであいつき (七月の異称)

織女星と牽牛星が互いに
愛し合うという月の意味から
七月のこと。盆秋、涼月など。

丹野 骨平

暑中御見舞い

申し上げ候

地獄の釜の 蓋開くや
南北に散る 襟の星

地獄の釜の 蓋開くや
遺影に光る 金の鳶

地獄の釜の 蓋開くや
骨無き墓に 参りける

地獄の釜の 蓋開くや
駆けり出しける 茄子の馬

地獄の釜の 蓋開くや
わたつみの声 響かせよ

